

平成 27 年度 事業報告書

平成 27 年 1 月 1 日 から 平成 27 年 12 月 31 日 まで

認定 NPO 法人 江戸城天守を再建する会

1. 主な事業の成果：

当会は、江戸城天守再建のロードマップ第 2 期「事業主体構想具体化」等に取り組むステージへ入り、多くの市民はもとより政官財にアプローチできる準備・環境の醸成を図る活動を展開した。主な成果として、江戸城天守のハード面の出発点となる「復元調査報告書」の完成、ソフト面では「事業構想等基本計画」の取りまとめを行なったことが挙げられる。また、昨年 11 月 3 日には、約 180 名の参加者を迎えて、記念報告会を開催し、NHK をはじめマスメディアに大きく取り上げられた。当会の運動は、起承転結の「転」のステージへと着実に進みつつある。

1) 新たな事業構想、「公益財団法人」を目指す準備の進展

- 理事と専門家が協働する「事業構想推進委員会」で取組みを進めた。

再建運動は、①事業主体（公益財団法人）立上げに向けた場づくり ②政官財民の気運の高まり ③関係所轄庁への許認可に向けた働きかけを控えており、これらへ向けた取組みの共通原典となる「事業構想等基本計画」を取りまとめた。これは今後、上記 3 点の課題取組みの素材としてフルに活用していくことになる。

- 新事業主体の立上げに向けた準備

上記の取組みにおける協働や企業・団体へのヒアリング・PR を通じて関係構築に努めると共に、主要な法的課題の整理・検討を専門家と着手し、具体的に取組みを進められる目途付けに至った。

2) 再建運動の成果を新たな広報施策に活かし、国民世論を喚起する：

- 「江戸城寛永度天守復元調査報告書 記念報告会」の成功

三浦正幸教授（広島大学大学院）の研究により、江戸城寛永度天守の全貌が史上初めて明らかになった。これを江戸城再建運動における「市民運動」と「学術研究」が生み出した画期的なエポックメイキングと位置付け、記念報告会を開催した。この成果は、読売新聞・東京新聞の 1 面掲載へと至り、さらに NHK の放送においては、当会が設立以来取り組んできた「市民の草の根運動（賛同署名・文化を学ぶイベントセミナーなど）」にもスポットが当たり、これまでにない規模で、広く社会に理解と賛同を広める国民世論喚起の一端を拓いた。

3) 資金調達、特に活動資金確保への取組み：

会員・市民・CSR 企業の皆様のご支援により、自立した市民団体として、活動展開を図ることができた。特別施策として、江戸城再建の前進を会員・市民と共に祝い、それを永く後世に遺すべく、復元調査報告書出版に向けた寄付キャンペーンを展開し、好評を得るに至った。

4) 事業活動を支える無償ボランティア

事務局の日常的なあらゆる作業から、高度な専門知識が必要な業務に至るまで、これらを支えているのは、無償のボランティアの貢献である。それなくして、持続可能な組織運営は、到底不可能であるといえよう。ここに改めて感謝の意を表す。（別掲 P3 参照）

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動にかかる事業

| 事業名 | 事業内容 | 実施日時 | 実施場所 | 従事者の人数(人) | 受益対象者 範囲・人数(人) | 支出額 (千円) |
|--|--|-----------------------|------|----------------|------------------------------------|-------------|
| ①江戸城再建の、規模・様式、実施方法等、その具体化のための調査・検討並びに建設を行う事業 | ・三浦正幸教授（広島大学大学院）が設計の礎となる資料「復元調査報告書」を完成させたことに伴い、そのヒアリング・意見交換等を行なった。 | 通年 | 都内 | 5 | 不特定多数 | 729 |
| ②歴史・文化・観光等についての調査・研究並びに維持・管理、運営を行う事業 | ・「事業構想等基本計画」の策定業務を専門家との協働とコンサルタントへの委託により取りまとめた。 ・日本文化、江戸文化の価値を学ぶ「江戸文化サロン」を開催した。 | 通年 2月 | 都内 | 5 | 不特定多数 | 6,046 |
| ③意義・必要性及びその実現方法並びに維持・管理、運営等について広報宣伝する事業 | ・復元調査報告書の意義、再建運動における位置付けを解説した記念パンフレットを制作 ・会報誌「かわら版」発行（4回） ・賛同署名活動を実施 ・大手門前等にてPR活動 | 11月 通年 通年 通年 | 都内 | 5 | 不特定多数 | 6,347 |
| ④江戸城再建の世論喚起のためのシンポジウム等のイベントを実施する事業 | ・「江戸城寛永度天守 復元調査報告書 記念報告会」開催 ・黒田涼氏の江戸を歩く、座学シリーズ計4回（3、4、5、9月） ・第3回江戸城寄席 | 11月 通年 9月 | 都内 | 15 10 13 | 不特定多数 (180名) (50名) (136名) | 2,453 |
| ⑤歴史・文化・観光等の街づくりに関わる各種団体・機関と連携をする事業 | ・千代田地域のイベント（ファミリーバザール、カレーグランプリ）等に参加し、賛同署名活動を実施した。 | 通年 | 都内 | 6 | 不特定多数 | 814 |

(2) その他の事業

該当なし

★多くのボランティアの皆様、活動の成果と感謝の特別メッセージ★

27年度事業活動のご報告に当たり、改めてボランティアの皆様、に厚く御礼を申し上げます。

当会の活動は、日常の事務局業務から高度な専門知識・スキルを要する業務に至るまで、ボランティア（無償奉仕）の皆様によって、支えられております。

平成27年度においては、三浦正幸教授（広島大学大学院）によって、「復元調査報告書の完成」という、史上初の偉業を遂げられ、多くの市民へ向けてそれを発表することにも多大なる貢献をして頂きました。三浦正幸教授に厚く御礼申し上げます。

ボランティアの皆様には、実に広範かつ多岐に亘る業務に参画し、貢献して頂きました。深く感謝の意を表しますと共に、次年度も引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。（現在は、実務上の問題等から、活動の原価算定は行っておりません。）

- | | |
|--------------------------|--|
| ① 事務局作業 | 入会手続きから、会計、会員情報等を PC に入力する等の日常業務 等 |
| ② 企画・編集 | かわら版・HP の企画編集・掲載、発行 等 |
| ③ 会員維持・拡大 | 会員の勧誘、電話連絡、メール送信コミュニケーション 等 |
| ④ PR 活動・賛同署名 | チラシ配り、イベントへの参加による PR/賛同署名活動 等 |
| ⑤ イベント・セミナー | イベント・セミナー関連業務の準備や当日の会場等の手伝い、 ルポライター、セミナーガイド等 ビデオ、カメラ、インタビュー 等 |
| ⑥ 高度な専門知識・ スキルを要する仕事 | 公認会計士、弁護士、有識者、文化や経営等コンサルタント、勉強会や 検討会の事務局（特別プロジェクト）、PC構築・システムエンジニア、 ホームページの企画デザイン・会報誌発行・広報アドバイス 等 |
| ⑦ CSR ボランティアに よる役務の提供 | 有志の個人のみならず、社会貢献活動（CSR）として参加する企業に よる役務の提供 |

● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

★ 平成 27 年度 特別寄付キャンペーン報告 ★

特別寄付キャンペーンに際しましては、多くの皆様からご協力を頂きました。
厚く御礼申し上げます。詳細につきまして以下の通りご報告致します。

| | |
|--------------------------------------|--|
| 名 称 | 特別寄付キャンペーン (名誉出版パートナー、出版サポーター募集) |
| 目 的 | 「江戸城寛永度天守復元調査報告書」の出版費用及び関連の 広告宣伝費に活用します。寄付金額が必要費用を上回った場 合は、江戸城天守再建に向けた当会の特定非営利事業費及び 管理費として大切に使用させていただきます。 |
| 平成 27 年度 寄付金総額 | 6,688,000 円 |
| ご寄付者数 | 294 名様 |
| 平成 27 年度 寄付金使途内容 | 江戸城寛永度天守の意義と価値を多くの市民へ伝える、 復元調査報告書 発表記念パンフレットの製作 (5000 部) 広報宣伝事業費：999,000 円 (消費税込) |
| 決算処理 | 寄付総額から平成 27 年度計上費用を差し引いた残額である 5,689,000 円を「特定資産 復元調査報告書出版基金」とし て計上し、財務諸表に記載します。 |
| キャンペーン期間の 延長および特定資産 に計上する理由 | 昨年 11 月 3 日に開催した記念報告会を契機として、年末に NHK や読売新聞などに大きく報道され、新たな寄付の御申 し出が多数寄せられました。また、出版サポーターの皆様にも 報告書を贈呈できる目途がたちましたので、改めてご案内 すると共に、受付期間を延長することとしたためです。 |
| 特別寄付キャンペーン 今後のスケジュール (平成 28 年) | 3 月末 特別寄付キャンペーン終了 4 月 寄付者氏名再確認、報告書印刷製本 5 月 報告書を寄付者、全国図書館等へ送付 |
| 参考： 復元調査報告書とは | ① 史上初の江戸城寛永度天守復元に関する学術研究書です ② 歴史史料の検証、考察が綿密に行われました。 ③ 正確な復元に活用でき、設計図面の基本となります |